

2023年度 事業計画

2023年4月 1日から
2024年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

2023年3月作成

所 信

2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で世界選手権福岡大会が再延期となり、その代わりに急遽開催された世界選手権ブダペスト大会において、競泳がメダル4個（銀2・銅2）、飛込が21年振りの表彰台となるメダル2個（銀2）、アーティスティックスイミング（AS）が金を含むメダル7個（金2・銀4・銅1）を獲得しました。また、水球男子が過去最高順位となる9位、オープンウォータースイミング（OWS）も2種目で9位となり、「水泳ニッポン、ここにあり」と、それぞれの種別で水泳競技の素晴らしさを多くの方々に伝えることができました。

その一方で、いまだ大半の主要事業が規模縮小や無観客開催などを余儀なくされました。このような不安定な状況下、ご支援ご協力をいただいた協賛・スポンサー各社、加盟団体、関係団体の皆さまに対し、まずは心より感謝と御礼を申し上げます。

2023年度の事業計画につきましては、引き続き新型コロナウイルス感染症に留意しながらも、事業全般が「脱コロナ」を目指しての内容となります。

選手派遣・選手強化事業では、自国開催となります世界選手権福岡大会とアジア大会を最重点大会と位置づけ、主要な国際大会に参加しての実戦強化、いわゆる「競技会強化」を含め、2024年パリオリンピックに向けて競技力向上に取り組みます。また次世代の選手強化にも積極的に取り組み、より高いレベルで戦える選手の早期育成、選手層の拡充を図ります。

競技大会開催事業では、世界選手権福岡大会において国際基準の質の高い大会運営を目指すとともに、国内競技会において主管団体と連携して、全国で統一した高いレベルの競技会を実現します。

指導者養成事業では、指導者養成3委員会による協議・協働を継続し、スポーツ文化の創造およびスポーツの社会的価値向上に貢献できる指導者の養成、ならびに減少傾向にある指導者資格保有者数の維持・増加に取り組みます。また、加速する学校体育における水泳授業の民間委託に関連した施策も講じます。

生涯スポーツ事業では、老若男女を問わず「泳力検定（飛込検定・AS バッジテスト・OWS 検定含む）」および「水泳の日」を通じて、手軽に水泳の楽しさを伝えるとともに、「サバイバルスポーツ」として水難事故防止の全国展開を図ります。

総務関係事業では、「水泳ニッポン・中期計画2017 - 2024」の進捗管理を行うとともに、「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」に適応した組織運営を継続し、ガバナンスの強化およびコンプライアンスの徹底、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性）の向上に取り組みます。また、これまで同様、自主財源の確立およびマーケティング活動についても注力します。

広報事業では、水泳競技への注目度を一層高めるとともに、水泳ファン・水泳愛好者へのリーチを意識した各種情報発信に努め、水泳ファミリーの拡大を目指します。

競技条件整備事業では、競技者登録管理システム「WebSWMSYS」、競技会記録速報ツール「超速」の安定運用および機能拡充を推進します。

これら組織基盤の強化を図りつつ、スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会(JSPO)、(公財)日本オリンピック委員会(JOC)などの関係機関・団体とも連携強化・協働を図り、SDGs(Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標)へも積極的に取り組み、水泳競技の持続的な発展と競技団体としての価値向上を目指します。

結びになりますが、コロナ禍の影響で本連盟を取り巻く環境は、依然不透明かつ厳しい状況であることを認識しなければなりません。2024年の本連盟創立100周年、そして日本水泳界の未来に向けて、各加盟団体と情報共有および意思疎通を密に図り、水泳界が一丸となった「オールジャパン体制」をより強固なものにしてまいります。皆さまのなご一層のご支援ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2023年3月26日

会長 鈴木 大地

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競技会	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
競 泳	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会	◎			◎
	ワールドユニバーシティゲームズ大会	◎		◎	
	パンパシフィック選手権大会				◎
	アジア選手権大会		○		
	世界選手権大会 (25m)		○		○
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会				○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
ジュニアパンパシフィック選手権大会		○		○	
アジアエージ選手権大会			○		
飛 込	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会	◎			◎
	ワールドユニバーシティゲームズ大会	◎		◎	
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	アジア選手権大会	○	○		
	AQUAワールドシリーズ	○	○	○	○
	AQUAグランプリ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会				○
	アジアエージ選手権大会	○		○	
世界ジュニア選手権大会		○		○	
水 球	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会	◎			◎
	ワールドユニバーシティゲームズ大会	◎		◎	
	アジア選手権大会		○		
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会 (U20)	○		○	
	世界ユース選手権大会 (U18)		○		○
	世界カデット選手権大会 (U16)		○		○
	アジアエージ選手権大会 (U17)	○		○	
ア ー テ ィ ス テ ィ ツ ク (A S)	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会	◎			◎
	アジア選手権大会		○		
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会		○		○
オ ー プ ン ウ ォ ー タ ー (O W S)	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会	◎			◎
	パンパシフィック選手権大会				◎
	アジア選手権大会		○		
	AQUAオープンウォーターツアー	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会		○		○

事業の方針

I 競技大会開催事業

2022年度は、新型コロナウイルス感染予防対策も定着し、主要競技大会を成功裏に終えることができた。しかしながら、5月に予定されていた世界選手権福岡大会が感染拡大の状況を踏まえて再び延期となった。2023年度は、満を持して7月に開催される大会の成功に向け全力を尽くす。さらには競泳・飛込・水球・AS・OWS それぞれが総力を挙げて、全ての競技大会を計画に沿って実施する。

1. 国内競技会開催事業

国内で行われる各大会の開催地、主管・共催団体との連絡調整を密に行い、企画、立案、運営、予算管理を着実に実施し、準備から大会終了までを統括する。新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、でき得る限りの最善策を立て「安全・安心な水泳競技大会」を目指し、選手が自己の持てる力を最大限発揮できる競技大会を実現する。シーズン前半に大きな大会が連続して開催されるため、ジャパンオープン2023は時期をずらして開催する。

(1) 【競泳競技】

①	日本選手権水泳競技大会	4/4～9	東京アクアティクスセンター(TAC)	東京
②	日本大学・中央大学対抗戦	7/1	TAC	東京
③	早稲田大学・慶應義塾大学対抗戦	7/2	TAC	東京
④	全国国公立大学選手権大会	8/11・12	ダイエープロビンスフェニックスプール	新潟
⑤	日本高等学校選手権大会	8/17～20	野幌総合運動公園	北海道
⑥	全国中学校水泳競技大会	8/17～19	県立総合水泳プール	香川
⑦	全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8/22～26	TAC	東京
⑧	日本学生選手権水泳競技大会	8/31～9/3	TAC	東京
⑨	国民体育大会	9/22～24	鴨池公園水泳プール	鹿児島
⑩	日本選手権水泳競技大会 (25m)	10/21・22	TAC	東京
⑪	日本社会人選手権水泳競技大会	11/11・12	ダイエープロビンスフェニックスプール	新潟
⑫	ジャパンオープン2023 (50m)	11/30～12/3	TAC	東京
⑬	国際大会代表選手選考会	3/17～24	TAC	東京
⑭	全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季大会	3/27～30	TAC	東京

(2) 【飛込競技】

①	翼ジャパンダイビングカップ	4/4～9	TAC	東京
②	日本高等学校選手権大会	8/17～19	日環アリーナ栃木	栃木
③	全国中学校水泳競技大会	8/17～19	県立総合水泳プール	香川
④	全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8/22～25	丸善インテック大阪プール	大阪
⑤	日本選手権水泳競技大会	9/1～3	日環アリーナ栃木	栃木
⑥	日本学生選手権水泳競技大会	9/9・10	丸善インテック大阪プール	大阪
⑦	国民体育大会	9/18～20	鴨池公園水泳プール	鹿児島
⑧	全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季大会	3/29・30	日環アリーナ栃木	栃木

(3) 【水球競技】

①	日本高等学校選手権大会	8/17～20	札幌市平岸プール	北海道
---	-------------	---------	----------	-----

②	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8/22～26	京都アクアリーナ	京 都
③	日本学生選手権水泳競技大会	9/1～3	横浜国際プール	神奈川
④	国民体育大会	9/17～20	鴨池公園水泳プール	鹿児島
⑤	日本選手権最終予選会	10/13～15	静岡県立水泳場	静 岡
⑥	日本選手権水泳競技大会	10/26～28	TAC	東 京
⑦	全日本ユース (U15) 選手権大会	12/24～27	倉敷・児島	岡 山
⑧	全日本ジュニア (U17) 選手権大会	3/17～20	柏崎アクアパーク	新 潟
⑨	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 春季大会	3/26～30	千葉県国際総合水泳場	千 葉

(4) 【アーティスティックスイミング競技】

①	日本選手権水泳競技大会	5/1～3	TAC	東 京
②	日本アーティスティックスイミングチャレンジカップ 2023	6/9～11	TAC	東 京
③	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8/22～25	横浜国際プール	神奈川
④	日本学生選手権水泳競技大会(マメイトカップ)	9/3	横浜国際プール	神奈川
⑤	国民体育大会	9/16	鴨池公園水泳プール	鹿児島
⑥	ユースソロ・デュエット大会	1/27	TAC	東 京
⑦	アーティスティックスイミング ナショナルトライアル2024	1/28	TAC	東 京

(5) 【オープンウォータースイミング競技】

①	オーシャンズカップ	6/11	館山市北条海岸	千 葉
②	日本学生選手権水泳競技大会	8/26・27	館山市北条海岸	千 葉
③	国民体育大会	9/18	屋久島町一湊海水浴場	鹿児島
④	日本選手権水泳競技大会	11/4・5	館山市北条海岸	千 葉

2. 国際競技会の開催事業

再び延期となった世界選手権福岡大会を世界水泳連盟 (AQUA) ならびに大会組織委員会との強固な連携の下、成功に導く。各競技において、AQUA 派遣の ITO と国内選出の NTO が協力し、出場選手の高いパフォーマンスを引き出すと同時に世界に誇る日本の競技運営力の高さを示す。開催地の (一社) 福岡県水泳連盟と本連盟から派遣される競技役員が協力して、各競技が円滑に実施できるように尽力する。

(1) 【全競技】

第20回世界選手権水泳競技大会 (2023/福岡)

7月14日～30日 マリンメッセ福岡ほか 福 岡

(2) 【競泳競技】

第20回世界選手権水泳競技大会 (2023/福岡)

7月23日～30日 マリンメッセ福岡A館 福 岡

(3) 【飛込競技】

第20回世界選手権水泳競技大会 (2023/福岡)

7月14日～22日 福岡県立総合プール 福 岡

(4) 【水球競技】

第20回世界選手権水泳競技大会 (2023/福岡)

7月16日～29日 マリンメッセ福岡B館 福岡

(5) 【アーティスティックスイミング競技】

第20回世界選手権水泳競技大会（2023／福岡）

7月14日～22日 マリンメッセ福岡A館 福岡

(6) 【オープンウォータースイミング競技】

第20回世界選手権水泳競技大会（2023／福岡）

7月15日～20日 シーサイドももち海浜公園 福岡

(7) 【ハイドIVING競技】

第20回世界選手権水泳競技大会（2023／福岡）

7月25日～27日 シーサイドももち海浜公園 福岡

3. 競技委員会事業

(1) 競技会事業

本連盟主催大会では、開催地の加盟団体や本連盟学生委員会、JSPO、(公財)全国高等学校体育連盟、(公財)日本中学校体育連盟などのスポーツ団体と連絡調整を密に行い、準備から大会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。また、新型コロナウイルス感染症予防対策を本連盟の示すガイドラインに沿って着実に実行。世界選手権開催年となる本年度は、全国大会において代表選手の活躍に大きな注目が集まる。国民の期待に応えられるよう、高いレベルの大会となるように全力を尽くす。

(2) 学生競技会事業

TACなどで競技ごとに開催される第99回日本学生選手権水泳競技大会（インカレ）にOWS競技が追加される。新潟県長岡市で開催される第70回全国国公立大学選手権水泳競技大会をはじめとする全ての学生大会の成功に向け加盟6支部が全力で取り組むとともに、「学生向けアンチ・ドーピング講習会」を継続開催する。また学生委員会（会議）を毎月開催し、各支部間相互の連絡と融和を図りつつ、厳正なる学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。学生競技役員を育成し、日本選手権など本連盟主催の競技会事業に対する学生の派遣を行う。2024年の第100回インカレを記念大会として位置づけ、各種別で開催に向けて協議を重ねる。

II 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、各種基盤・インフラを整備し、その水準を維持することにより、さらなる水泳競技の普及発展を図る。

1. 競技者登録事業

利便性の高い団体登録情報・競技者登録情報の管理基盤(システム利用環境)の実現を目指す。競技者登録管理システム(WebSWMSYS)における競技者の重複登録の解消、ローマ字誤登録対応など、機能の改善を推進する。

2. 競技規則制定事業

2022年10月に行われたAQUAの「TECHNICAL CONGRESS」において、AQUA競技規則の改訂が行われ、新たな国際規則が2023年1月1日より施行された。同規則の改訂を受けて、「競泳競技規則」「競技役員の手引き」ならびに各種別の国内競技規則の改訂を行い、2023年4月1日から施行する。新競技規則についての確かな情報発信を行い、全国統一の理解・共通認識の下で、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進する。

3. 競技役員養成・登録事業

「水泳ニッポン・中期計画2017-2024」に準拠し、全国の競技会をより充実させることを目的に、選手の力を最大限に引き出す高いレベルの競技役員・審判員を養成する。国際基準の眼を培い、「世界トップレベルの水準で、全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指す。

競技役員資格取得者18,000人を目標に、本連盟の方針や改定された競技規則が全国各地で浸透するように取り組む。そのために競技役員研修会を充実させ、リモート形式も含めてブロック研修会、各加盟団体主催研修会とも着実に実施する。全国大会開催予定の加盟団体が実施するリハーサル大会などに本連盟の競技委員を派遣して、競技会指導を行う。

また、日本選手権などの本連盟主催の競技会に各加盟団体から競技委員長や中核となる審判員に競技役員として参加いただき、最新の競技運営の習得を目的とした実技研修を実施する。全国競技委員長会議を、リモート会議形式で4月の日本選手権開催期間中に実施する。

4. 競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、管理する事業を行う。「記録管理報告サイト」を新たに構築したことで、記録の報告・管理・保全の効率化・省力化が図られ、各地で開催される公認公式競技会の3日以内の記録結果報告も、加盟団体の協力により定着しつつある。引き続き、安定稼働を目指す。また、「超速」のバージョンアップを行い、競技会での活用を促進する。

5. 施設用具公認推薦事業

「プール公認規則」にのっとり、新規公認および再公認のプール公認事業を行う。

また、「水泳及び水泳競技に使用される用器具類やシステム等の公認・推薦規程」にのっとり、水泳競技に関わる用器具類などの公認・推薦事業を行う。

6. アンチ・ドーピング事業

(1) 主催競技会でのドーピング検査事業

国際的なアンチ・ドーピング活動の一環として、(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携し、本連盟主催大会かつJADAが指定する「国内最高レベルの競技会」においてドーピング検査(競技会検査)を実施する。また、該当競技会の監督者会議ではアンチ・ドーピン

グに関する啓発を行う。さらに、選手の権利を守る立場である NF 代表役員（主に医事委員会もしくはアンチ・ドーピング委員会の委員）を該当競技会のドーピング検査会場に配置する。

(2) その他の事業

- ① 競技会における配布資料やホームページ（HP）掲載資料などの作成、禁止物質・禁止方法の治療使用特例（TUE）申請書類の事前審査
- ② 強化合宿・研修会（オンライン含む）などでのアンチ・ドーピング講習会講師派遣
- ③ 競技会会場での医薬品使用相談スポーツファーマシスト派遣
- ④ JADA 会議・研修会（オンライン含む）への NF 代表役員の参加
- ⑤ 競技会におけるアンチ・ドーピング啓発活動（アウトリーチプログラムの実施）
- ⑥ HP 上での医薬品使用に関する「薬の相談窓口」対応

III 選手派遣事業

選手派遣事業は、本連盟の財源はもとより国の補助金や助成金などの公的資金を活用することから、費用対効果を含めた評価および報告の義務が課せられる。世界選手権福岡大会、アジア大会およびパリオリンピックに向けた競技力向上のため、各派遣の目標達成に向けた計画や準備など、派遣事業がより効果的に実施されるよう、水泳界の英知を結集し総力を挙げて事業に取り組む。

1. JOC 派遣事業

(1) アジア大会

① 期間・場所	9月23日～10月 8日	中国・杭州
② 競技種目・日程		
(a) 競泳	9月24日～ 9月29日	
(b) 飛込	9月30日～10月 4日	
(c) 水球	9月24日～10月 8日	
(d) AS	10月 6日～10月 8日	
(e) OWS	10月 6日・10月 7日	

(2) ワールドユニバーシティゲームズ

① 期間・場所	7月28日～8月 8日	中国・成都
② 競技種目・日程		
(a) 競泳	8月 1日～8月 7日	
(b) 飛込	7月31日～8月 7日	
(c) 水球	7月27日～8月 8日	

2. 本連盟派遣事業（主要大会）

(1) 世界選手権大会

① 期間・場所	7月14日～7月30日	日本・福岡
② 競技種目・日程		

(a) 競泳	7月23日～7月30日
(b) 飛込	7月14日～7月22日
(c) 水球	7月16日～7月29日
(d) AS	7月14日～7月22日
(e) OWS	7月15日～7月20日

(2) アジアエージ選手権大会

期間・場所 12月 フィリピン・ニューグラーク

(3) 世界選手権大会

期間・場所 2024年 2月 2日～ 2月18日 カタール・ドーハ

IV 選手強化事業

2023年度は、自国で世界選手権福岡大会が開催されると同時に、パリオリンピックを前年に控えた重要な年となる。AQUAの改革により、競技のルールや大会のあり方が大きく変わる可能性があるため、月1回の特別強化本部会議を通じて5部門の進捗状況を常に確認するとともに、国際情勢の把握、新ルールへの適応も着実に進む。選手強化事業としての最大の目標は全種別のパリオリンピック出場権獲得であるが、2028年ロサンゼルスオリンピックを見据えたジュニア世代の強化も確実に進めるため、強化戦略プランに基づき、実施・改善を軸に、好循環のスパイラルアップを図る。

1. 競泳強化事業

2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、世界選手権福岡大会・ワールドユニバーシティゲームズ・アジアエージ選手権大会・アジア大会が、それぞれ延期または中止となった。福岡大会の代わりに開催された世界選手権ブダペスト大会では、銀2個・銅2個のメダルを獲得したが、金メダルを獲得することはできなかった。本戦でのベストタイム更新が非常に少なく、3年間におよぶ国際大会への海外派遣のブランクは大きく、今後に課題を残した。一方で、ジュニアパンパシフィック選手権大会では、国別対抗戦でオーストラリアを抑え、アメリカに次ぐ2位の成績を収めた。世界ジュニア選手権大会においても、国別メダル獲得ランキングで1位を獲得し、ジュニア世代の成長が大いに見られた。

2023年度は、延期となった世界選手権福岡大会が自国で開催される。結果的にオリンピック前年の開催となったため、パリオリンピックを視野に入れた選考により、できるだけ多くの選手を派遣する予定である。同様に、延期となったワールドユニバーシティゲームズ・アジア大会が開催され、2024年2月には世界選手権ドーハ大会も開催される。パリオリンピックへ向けてそれぞれの大会を個別に捉えるのではなく、「年間強化」の繋がりを意識して各大会に臨む所存である。

世界選手権福岡大会でブダペスト大会での戦績を確実に上回り、パリオリンピックのリレー代表権獲得のため8位入賞を目指す。また、パリオリンピックにおける第1目標「金メダルを含む複数メダル獲得」に向け強化にまい進する。また、成長著しいジュニア世代の勢いをそのままに、2028年ロサンゼルスオリンピックも視野に入れた強化も継続する。

(1) 国際競技会

① ヨーロッパグランプリ	5月	ヨーロッパ
② 国際水泳59° セツテコリー	6月	イタリア・セツテコリー
③ 世界選手権大会	7月	日本・福岡
④ ワールドユニバーシティゲームズ	8月	中国・成都
⑤ 東アジアユース選手権大会	8月	モンゴル・ウランバートル
⑥ 世界ジュニア選手権大会	未定	未定
⑦ アジア大会	9月	中国・杭州
⑧ ワールドカップ	未定	未定
⑨ ジュニア選抜遠征	1月	未定
⑩ 世界選手権大会	2月	カタール・ドーハ

(2) 強化トレーニング合宿

① 世界選手権(福岡)・アジア大会一次合宿	4月	NTC-E
② ワールドユニバーシティゲームズ一次合宿	4月	JISS
③ 世界選手権(福岡)大会選抜合宿	5月	フランス・アミアン
④ 世界選手権(福岡)大会選抜高地合宿①	5月	スペイン・シエラネバダ
⑤ 世界選手権(福岡)大会選抜高地合宿②	6月	アメリカ・フラッグスタッフ
⑥ 世界選手権(福岡)大会高地合宿	6月	東御
⑦ 世界選手権(福岡)大会リレー合宿	6月	NTC-E
⑧ 世界選手権(福岡)競技会強化合宿	6月	相模原
⑨ 世界選手権(福岡)大会直前合宿	7月	NTC-E
⑩ ワールドユニバーシティゲームズ直前合宿	7月	JISS
⑪ 東アジアユース選手権大会直前合宿	8月	NTC-E
⑫ 世界ジュニア選手権大会直前合宿	未定	未定
⑬ アジア大会直前合宿	9月	野幌
⑭ ワールドユニバーシティゲームズ候補合宿	10月	富士
⑮ インターナショナル合宿①-1	11月	東御
⑯ インターナショナル合宿①-2	11月	NTC-E
⑰ 世界選手権(ドーハ)大会リレー合宿	12月	JISS
⑱ インターナショナル合宿②	12月	NTC-E
⑲ ジュニアナショナルチーム合宿	12月	鈴鹿
⑳ 世界選手権(ドーハ)大会事前合宿	1月	未定
㉑ インターナショナル合宿③-1	1月	東御
㉒ 世界選手権(ドーハ)大会直前合宿	2月	未定
㉓ インターナショナル合宿③-2	2月	NTC-E
㉔ パリオリンピック候補一次合宿	2月	NTC-E
㉕ ナショナル研修会合宿①	10月	JISS
㉖ ナショナル研修会合宿②	10月	JISS
㉗ ナショナル研修会合宿③	11月	JISS
㉘ エリート小学生研修合宿(春季)	4月	オンライン
㉙ エリート小学生合宿(秋季)	9月	富士
㉚ 五輪候補個別合宿(海外)	未定	各地

(3) コーチ派遣・招聘

① ヨーロッパ選手権視察	9月	未定
--------------	----	----

(4) 企画・研修および講習会

① マスタープラン会議	9月	東京
② 全国強化コーチ会議	10月	東京
③ インターナショナルオンライン研修会	10月	オンライン

2. 飛込強化事業

2022年度は、世界選手権ブダペスト大会では、男子高飛込の玉井陸斗と女子3m シンクロ飛板飛込の三上紗也可・金戸凜ペアが、日本飛込界としては21年振りの表彰台となる銀メダル（計2個）を獲得した。また、派遣した選手9名全員が決勝進出を果たした。一方で、コロナ禍で専用施設での練習が充分に行えなかったことや国際競技会における経験値を増やせなかったことなどが、反省材料として挙げられた。

この反省を糧に、2023年度はパリオリンピックでのメダル獲得を目標に、「競技会強化」、「重点強化」、「拠点強化」を軸に、強化事業を展開する。

競技会強化では、オリンピック予選を兼ねる3大会（7月の世界選手権福岡大会、10月のアジア選手権大会、2024年2月の世界選手権ドーハ大会）に臨み、パリオリンピックの出場権獲得を目指す。まずは、7月の世界選手権福岡大会を最重要大会と位置づけ、個人4種目決勝12位以内・シンクロ4種目決勝3位以内でパリオリンピック内定とする。過去のオリンピックや世界選手権大会の結果をデータ化し、目標得点および難易度を定める。女子飛板飛込、女子高飛込、男子高飛込での上位入賞を目標とし、女子シンクロ飛板飛込や女子シンクロ高飛込も好成績を目指す選手団を編成する（9月に中国杭州で開催されるアジア大会には、このナショナルチームからさらにメンバーを精選して大会に臨む。アジア大会に出場するメンバーが、パリオリンピックの中核メンバーとなる）。次に、10月開催予定のアジア選手権大会で個人種目に優勝した選手を内定に加える。さらに、2024年2月の世界選手権ドーハ大会で個人4種目決勝12位以内の選手と、シンクロ4種目でオリンピック出場権既獲得国を除く上位4か国以内を内定に加え、パリオリンピック飛込選手団を編成する。ジュニア強化については、12月のアジアエージ選手権大会（ニュークラーク・フィリピン）を主要大会とし、全種目上位入賞を目標に、技術力・精神力に長けた勝負強い選手の早期育成を国内強化の基盤に努める。

重点強化では、過去の実績を基に、男子高飛込・玉井陸斗、女子3m 飛板飛込・三上紗也可の強化を「メダルポテンシャルアスリート強化事業」と位置づけ、日本飛込界全体で長期的、かつ重点的に強化・支援を継続推進する。

拠点強化では、コロナ禍の状況下でも継続的に国内合宿を実施できる練習拠点の確保が必要不可欠なため、これまでお世話になってきた石川県、三重県、静岡県の公共プール施設に加え、飛込に特化した室内練習施設を完備した栃木県の「日環アリーナ栃木」を国内強化の重要拠点として利活用させていただく。

(1) 国際競技会

① 世界選手権大会	7月14日～22日	日本・福岡
② ワールドユニバーシティゲームズ	7月31日～8月7日	中国・成都
③ アジア大会	9月23日～10月8日	中国・杭州
④ アジア選手権大会	10月（予定）	未定
⑤ アジアエージ選手権大会	12月2日～9日	フィリピン・ニュークラーク
⑥ 世界選手権大会	2月2日～2月18日	カタール・ドーハ
⑦ AQUA 飛込ワールドカップ GP	未定	未定

(2) 強化トレーニング合宿

① 強化国内合宿

(a) 世界選手権福岡大会合宿	6月20日～30日	福岡・福岡
(b) ワールドユニバーシティゲームズ強化合宿	6月	栃木・宇都宮
(c) アジア大会強化合宿	9月	栃木・宇都宮
(d) アジア選手権大会合宿	10月	栃木・宇都宮
(e) 世界選手権ドーハ大会合宿	1月	栃木・宇都宮
(f) 国内強化合宿	未定	栃木・宇都宮

② ジュニア合宿

(a) ジュニア合宿①	11月	栃木・宇都宮
(b) ジュニア合宿②	未定	未定

(3) 企画・研修会および講習会

① 強化コーチ会議	10月ほか 多数回	未定
② ブロック代表者会議	12月	未定
③ 公認審判員研修会		
(a) Guidelines for AQUA Schools	未定	未定
(b) A級・B級公認審判員中央研修会	5月～7月 数回	未定
(c) C級公認審判員研修会	中央研修会後	随時
(d) 巡回教室	未定	未定
(e) 指導者育成研修	未定	未定

3. 水球強化事業

東京オリンピック後長期的視点を持って、強化、競技、企画など、全般的な計画立案検討に着手している。強化の方向性は日本独特の戦術をブラッシュアップしていくことに尽きる。代表活動においては、意図的に若手を登用することにより、代表候補内での競い合いが起き、ベテラン・若手が活性化するよう努めている。他方、ジュニア年代別の国際大会への積極参加、ならびに当該大会をターゲットと位置づけた研修合宿の実施も重要である。国内主要大会への視察や合宿においては、代表で実施している戦術の理解・習得を意識させるため、代表スタッフ（または代表選手）が対応することに留意している。

2023年度日本代表当面の目標は、9月のアジア大会（2024年パリオリンピックアジア大陸予選会）で男子・女子とも優勝し、オリンピック出場権を獲得することである。そのために、7月の世界選手権福岡大会において、男子はベスト8、女子は決勝トーナメント出場を目標とする。2023年の年代別国際大会は、世界ジュニア選手権大会 U20（男子6月ルーマニア・ブカレスト、女子9月ポルトガル・マデイラ）、7月のユニバーシティゲームズ（中国・成都）、12月のアジアエージ選手権大会（U17、男子女子、フィリピン・ニュークラーク）が計画されており、それぞれ準備し参戦を目指す。

コロナ禍の影響で、2022年度も大会の延期・中止などが相次いだ。計画的な強化が困難な状況であり、この傾向は今後も続くものと覚悟しつつ、何より「水球界一丸となって、世界に挑む体制づくり」に継続して注力していく。また、大学卒業後の有望選手の競技継続のため、海外クラブチームへの所属支援を継続して行う。また国内社会人チーム育成に向けた国内競技会見直し検討も急務であり、進捗を図っていく。

(1) チーム派遣

① 世界選手権大会	7月16日～7月29日	日本・福岡
-----------	-------------	-------

② ユニバーシティゲームズ	7月28日～8月8日	中国・成都
③ アジア大会	9月23日～10月8日	中国・杭州
④ 世界選手権大会	2月2日～2月18日	カタール・ドーハ
⑤ 男子世界ジュニア選手権大会 (U20)	6月10日～6月16日	ルーマニア・ブカレスト
⑥ 女子世界ジュニア選手権大会 (U20)	9月2日～9月10日	ポルトガル・マデライ
⑦ 男女アジアエージ選手権大会 (U17)	12月2日～12月9日	フィリピン・ニュークラーク

(2) 強化トレーニング合宿

① 男子世界選手権大会前チーム招聘合宿	7月予定	日本・福岡
② 女子世界選手権大会前チーム招聘合宿	7月予定	日本・倉敷
③ 男子欧州遠征	1月予定	未定
④ 男子第1次～第8次国内強化合宿	各月1週間程	未定
⑤ 女子第1次～第9次国内強化合宿	各月1週間程	未定
⑥ 男女ユニバーシティゲームズ国内合宿・通い練習	5・6月予定	未定
⑦ 男女U17選考合宿	8～9月予定	未定
⑧ 男女U20国内強化合宿	6～8月予定	未定
⑨ 男女U17国内強化合宿	11月予定	未定

(3) 企画・研修および講習会

① 男子U16・U17研修合宿	12月・3月	倉敷・柏崎
② 男女強化コーチ会議	通年	オンラインほか
③ 全国コーチ会議・コーチ研修会	通年	オンラインほか
④ 代表チーム強化助成事業	通年	各地
⑤ 審判指導者合同研修会 (国際トップ審判員の招聘)	10月	東京アクアテックセンター
⑥ 国際情報収集	通年	欧州ほか
⑦ 科学情報収集	通年	JISSほか
⑧ 代表候補選手研修会	通年	オンラインほか
⑨ ジュニア指導者研修会	12月・3月	倉敷・柏崎
⑩ 選手選考トライアル	下期	未定

4. アーティスティックスイミング強化事業

2023年度は2つの世界選手権大会（福岡大会・ドーハ大会）とアジア大会（10月、杭州）での複数メダル獲得、およびパリオリンピック出場権獲得が最大の目標となる。2022年10月～11月にA代表派遣選手選考会を段階的に実施し、14名の世界選手権福岡大会代表選手を選考、12月より代表強化をスタートした。福岡大会に向けては、ASルールの大幅変更に伴い戦術方略を鋭意研究し、日本選手権（5月、TAC）、AQUAワールドカップ2023（5月、モンペリエ）に出場し実戦経験を積む。同時に、オリンピック正式種目となったアクロバティックルーティンの強化と男子選手の活用に積極的に取り組む。アジア大会はオリンピック種目のみの戦いになるため、デュエットとチームの重点強化を図る。世界選手権ドーハ大会（2月）はパリオリンピック最終予選と位置づけられていることから、オリンピック出場資格の獲得に全力で挑む。

2028年・2032年に向けての次世代強化として、ユース代表を世界ユース選手権大会（8月、アテネ）に派遣し、表彰台を狙う。AQUAが重点強化のひとつとして掲げているミックスデュエットの普及と男子選手の拡充対策として、男子選手の育成強化の機会

をこれまで以上に増やし、競技人口拡大および競技力向上を図る。ユース強化事業（11～14歳）は、全国8ブロックより選抜された有望選手を対象にユース有望合宿を実施し、有望選手からユースエリート強化選手を若干名選抜し、ユースエリート強化合宿ならびに国際大会派遣を通して、2028年以降の中心戦力選手を着実に育てていく。さらに、ジャンパー育成プロジェクトによるアクロバティック強化を継続する。

2023年1月1日より適用される AQUA ルールの国内運用に向けて、ルールの正しい解釈に加えて正確なコーチカードの申告とテクニカルコントローラーの養成が急務である。2023年度は新しいスコアリングシステムのもとで全国大会を展開しつつ、コーチカード講習会、テクニカルコントローラー養成講習会、競技運営研修会などを定期的に行い、世界の潮流に乗り遅れることなく情報収集に努め、迅速・正確に対応していく。

(1) 国際競技会

① AQUAASWC 2023 モンペリエ大会	5月	フランス・パリ
② AQUAASWC 2023 スーパーファイナル	6月	未定
③ 世界選手権大会	7月	日本・福岡
④ アジア大会	10月	中国・杭州
⑤ 世界ユース選手権大会	8月	ギリシャ・アテネ
⑥ アジアエージ選手権大会	12月	フィリピン・ニュークラーク
⑦ 世界選手権大会	2月	カタール・ドーハ

(2) 強化トレーニング合宿

① 世界選手権福岡大会代表合宿	4～7月	JISS ほか
② 世界ユース選手権大会代表合宿	5～8月	JISS
③ アジア大会代表合宿	7～10月	JISS
④ 世界選手権ドーハ大会代表合宿	10～2月	JISS ほか
⑤ パリ五輪強化合宿	2～3月	JISS ほか
⑥ 2028・2032五輪対策ジャンパー育成プロジェクト合宿	10～2月	NTC
⑦ ジュニア代表候補強化合宿	12月	JISS
⑧ ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑨ ユースエリート育成特別強化合宿	10～12月	JISS
⑩ 男子ジュニア強化合宿	12月	JISS

(3) 企画・研修および講習会

① 代表派遣選手選考会	10～12月	HPSC
② テクニカルコントローラー養成講習会	年間	HPSC
③ 全国強化担当者会議	10～12月	JISS
④ コーチキャンプ	10～12月	HPSC
⑤ ナショナルコーチ・国際審判員合同会議	秋	JISS
⑥ ブロック巡回指導ナショナルコーチ派遣	10～3月	各ブロック
⑦ 審判強化研修	年間	東京・大阪・加盟団体
⑧ 審判研修会、レフリー派遣	年間	競技会開催地ほか
⑨ 競技者育成プログラムバッジテスト	4月・10月	東京・大阪・加盟団体
⑩ 男子選手講習会	4月・10月	東京・大阪

5. オープンウォータースイミング強化事業

2022年度は、世界選手権ブダペスト大会では、最高順位がミックスリレーならびに女子25km

の9位であり、入賞に手が届かなかった。一方で、アジア大会延期に伴い開催された第10回アジア選手権大会では、男子5kmで優勝・準優勝、女子5kmで優勝、男子10kmで優勝・3位となり、メダルランキングも日本が1位であった。

近年、競泳長距離トップ選手の参入がさらに盛んになっており、同一選手（ヨーロッパの選手）が世界選手権大会の競泳とOWSの両方でメダルを獲得している。このことから、OWS選手の競泳タイムの向上は必須であり、2022年度よりナショナルチームの基準にOWSの成績だけでなく、競泳のタイムも加え、選手自身に競泳の強化も意識づける方策を開始した。

2023年度はオリンピックの前年であり、世界選手権大会が年度内に2回開催される。OWSは福岡大会・ドーハ大会がともにパリオリンピックの選考会となっており、非常に重要な大会となる。7月に開催される福岡大会は高水温が想定され、2月に開催されるドーハ大会は低水温が想定される。東京オリンピックの経験を活かし、競泳の強化に加えて、暑熱順化・冷却順化を行い、様々な環境下で実力を発揮できる準備を行う。

また、ジュニアの強化育成は、競泳を主に強化に取り組み、その強化の一環としてOWSの参加機会を持つことで、将来のOWSスイマーの発掘と選手層の拡大を進めており、現時点で数名の選手が該当している。昨年度開催された世界ジュニア選手権大会では、7.5km男女およびミックスリレーにおいて5位入賞を果たした。ナショナルチームとして、シニアと合同で強化したことで、競泳の泳力も向上したことから、2023年度も引き続き、OWSチームとしての強化を図る。

シニア・ジュニアともにOWSのみの強化だけでなく、競泳・OWS双方の競技力向上を目的とした強化を推進する。

(1) 国際競技会

①オープンウォーターツアー	5月	イタリア・ゴルフフォアランチ、ポルトガル・セトゥバル
②世界選手権大会	7月	日本・福岡
③オープンウォーターツアー	8月	フランス・パリ
④アジア大会	9月	中国・杭州
⑤全豪選手権大会	1月	オーストラリア
⑥世界選手権大会	2月	カタール・ドーハ

(2) 強化合宿

①世界選手権大会合宿	6月～7月	東京・JISS など
②ナショナルチーム合宿	12月	静岡・浜松など
③世界選手権大会合宿	1月	東京・JISS など
④ジュニア長距離合宿	2月	東京・JISS など

(3) 企画・研修および講習会

①強化コーチ会議	毎月	オンライン
----------	----	-------

6. 科学事業

本連盟関係諸委員会、加盟団体、関連組織との連携を強化し、国内外の競技会における競技

力向上に資する科学支援事業を展開する。競泳選手・コーチへのレース分析データの提供効率を上げ、映像データ（水上）の提供を日本選手権などで継続実施する。飛込、水球、AS、OWSの日本選手権など、全国大会での科学サポートを継続・発展させる。合宿における科学サポートでは、選手が主体的に競技力向上を科学的な見地から考察できる取り組みを行う。教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会の準備・開催に協力する。広報委員会と連携し、事業報告、科学サポート報告、学会などでの最新科学知見を、月刊水泳を通じて広く周知する。

(1) 競泳の科学サポート

- ① 競泳の主要競技会（世界選手権福岡大会（予定）、日本選手権、国体などの全国大会）におけるレース撮影・分析や競泳委員会と連携した科学サポートの実施
- ② データ利用の促進（競泳委員会・医事委員会との連携によるデータベース構築、情報システム委員会との連携によるデータの適切管理化）

(2) 飛込、水球、AS、OWS の科学サポート

各競技会（世界選手権福岡大会（予定）および日本選手権などの全国大会）における撮影・分析、各委員会と連携した科学サポートの実施

(3) 主要合宿での科学サポート推進

- ① 競泳エリート小学生研修合宿、ナショナル合宿、ジュニアナショナル合宿などでのサポート
- ② 飛込、水球、AS、OWS の主要合宿科学サポート

(4) 教育・啓発・普及活動

- ① 日本水泳・水中運動学会年次大会（10月初旬、九州共立大学）の準備・実施への協力
- ② 「水泳の日」（広島）における水中撮影・映像提供（対象:一般スイマー）

7. 医事事業

2023年度は、本連盟関係諸委員会、JISS、JOC、JADA らと連携しながら、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動、競技会における救護活動、新型コロナウイルス感染症予防対策および水泳競技をより安全に普及するための調査・研究・広報活動を行う。世界選手権福岡大会においては水泳競技会場での救護活動を、大会組織委員会と連携して実施する。

全国各地に潜在する有望選手に対しても適切な医学的サポートが行われるように、各地域におけるメディカルサポート活動を行う。そのため各地域ブロックにおいてメディカルスタッフのミーティングを行い、各都道府県加盟団体の医事委員会との連携をとれるような対策を考案していく。教育、啓発活動として日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また指導者養成講習会などへの講師派遣を行い、水泳医学に関する知識や経験を広く水泳指導者に伝えていく。

(1) 主要競技大会における医事運営

- ① 救護担当ドクターの派遣
- ② Covid-19 officer の派遣
- ③ 救護用医薬品の管理

(2) 競技選手へのメディカルサポート活動

- ① 選手のコンディショニングおよび外傷・障害・疾病の管理

- ② アンチ・ドーピング活動
 - ③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防対策実践
 - ④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動および調査研究活動
 - ⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化
 - ⑥ 国際大会・合宿などへの帯同ドクター・トレーナー派遣
- (3) 教育・啓発・研究活動
- ① AQUA 医事委員会との協力
 - ② 日本水泳ドクター会議・日本水泳トレーナー会議との連携・協力
 - ③ 障害予防のための研究、予防対策の開発・普及
 - ④ 指導者養成講習会への講師派遣

V 普及事業

普及事業は、強化事業とともに本連盟の二本柱を形成する重要な位置づけにある。2023年度も、指導者養成事業、生涯スポーツ事業、OWS 普及事業、日本泳法保存事業、機関誌発行事業、HP や SNS などを活用した広報事業に取り組む。「水泳の日」については、水泳愛好者や水泳ファンの拡大を目指すとともに、水難事故防止の観点から全国展開を継続、推進する。

1. 指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上に当たる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、JSPO と連携協力し指導者養成事業を実施する。また、JSPO が実施している指導者資格再登録および公認スポーツ指導者管理システム「マイページ」の活用のほか、オンライン・リモート活用による受講システムの構築などデジタル展開可能な領域から実践し、指導者資格取得者の拡大に向けて受講者の利便性や効果的な情報配信方法についての向上を図る。

(1) 地域指導者養成事業

- ① 指導者養成事業
 - (a) JSPO 公認水泳コーチ 1・2 (以下コーチ 1・2) の新規養成
 - (b) 加盟団体を通じた本連盟公認基礎水泳指導員 (以下基礎水泳指導員) の新規養成
 - (c) 競技実績を有するアスリート・指導者の基礎水泳指導員資格免除認定審議
 - (d) 免除適応校 (大学) の養成事業に対する助言・指導
 - (e) 免除適応校 (専門学校) に対する助言・専門科目の検定
- ② 指導者研修事業
 - (a) コーチ 1・2 ならびに基礎水泳指導員の更新研修に対する督励・助言・指導
 - (b) 指導者に対するコンプライアンス教育の展開
 - (c) 学校水泳指導者に対する研修事業
- ③ 指導者登録事業
 - (a) コーチ 1・2 の新規・更新登録
 - (b) 基礎水泳指導員の新規・更新登録・管理
- ④ 加盟団体との連携
 - (a) 全国地域指導者 (普及) 委員長会議を通じた指導者養成事業の共通理解と厳格・

公正・均質化

(b) 地区別委員長会議などへの派遣を通じた、地域における指導者養成事業の課題の把握と督励

⑤ 水泳の普及に関する事業

(a) 指導者養成事業の広報

(b) 水泳の安全に関する研究と普及

(2) 競技力向上コーチ養成事業

① 資格審査の実施

② コーチ資格の新規登録・再登録・登録更新事業

③ コーチ3および4研修会事業の実施（更新研修はオンラインにて実施）

④ コーチ3および4養成講習会事業の推進

⑤ 免除適応コース実施校との連携

⑥ デベロップメント・ワークショップの開催

(3) 水泳教師養成事業

① 水泳教師新規養成事業の推進（(一社) 日本スイミングクラブ協会と合同推進）

(a) 適応コース講習検定会の実施（本連盟担当）

(b) 適応コース大学検定会の実施（本連盟担当）

(c) 適応コース認定校の新規開拓（本連盟担当）

② 新規養成コース講習検定会の実施（(一社) 日本スイミングクラブ協会担当）

③ スキルアップセミナーの開催（東京、愛知、神奈川）（本連盟担当）

④ 水泳教師資格の新規・更新登録事業（(一社) 日本スイミングクラブ協会と合同推進）

⑤ 水泳教師資格更新研修会事業（(一社) 日本スイミングクラブ協会と合同推進）

⑥ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（(一社) 日本スイミングクラブ協会と合同推進）

2. 生涯スポーツ事業

マスターズ水泳事業は、(一社) 日本マスターズ水泳協会および JSPO と連携し、日本スポーツマスターズ大会のさらなる発展を目指し、開催地の大会企画・運営を支援する。

泳力検定事業は、運用開始した「泳力検定システム」を活用し、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門と位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進する。

「水泳の日」事業は、中国ブロックの広島県広島市ひろしんビックウェーブおよびマエダハウジング東区スポーツセンタープール（8月13日）にて開催する。実行委員会を中心として、(一社) 日本スイミングクラブ協会、(一社) 日本マスターズ水泳協会、(一社) 日本パラ水泳連盟、(一財) 広島県水泳連盟をはじめとする中国五県の加盟団体および各委員会、関連団体と連携を密に図り、企画・立案・運営に全力を尽くす。

(1) 日本スポーツマスターズ事業

① 「日本スポーツマスターズ2023水泳競技福井大会」の開催

（8月26日～27日；福井県敦賀市 敦賀市総合運動公園プール）

- ② (一社) 日本マスターズ水泳協会および JSPO と連携した大会のさらなる発展
- ③ 参加者が少ない第9部の個人種目およびリレー種目280歳の部の普及

(2) 「水泳の日」開催事業

- ① 「水泳の日2023・広島」の開催(8月13日:ひろしんビックウェーブおよびマエダハウジング東区スポーツセンタープール)
- ② 加盟団体が継続して主催開催する「水泳の日」への支援および連携
- ③ イベントに関わる会議の企画・立案・運営のパッケージ化
- ④ 各委員会および関連団体との連携・連絡調整
- ⑤ (一社) 日本記念日協会より記念日として認定された「水泳の日」の周知

(3) 泳力検定事業

- ① 泳力検定者および合格者の増加促進
- ② ニチレイチャレンジ特別泳力検定会(15会場以上)などの企画・立案・運営
- ③ 泳力検定優秀団体の表彰
- ④ 泳力検定未実施団体(スイミングスクールなど)へのアプローチ強化
- ⑤ 「泳力検定システム」の運用促進および普及啓発

(4) 優秀団体表彰

- ① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体の表彰

(5) 「安全な水泳教育」の普及

- ① アスリート委員会、スポーツ環境委員会と連携した、「命を守るスポーツ」としての水泳教育、環境教育の整備

3. OWS 普及事業

- (1) OWS スイムクリニック、OWS 検定事業の開催
- (2) OWS 審判員養成(審判講習会の開催)
- (3) OWS 指導員養成(指導員講習会の開催)
- (4) OWS 公認コーチ養成(更新講習会の開催)
- (5) 認定 OWS 大会運営仕様の標準化と普及
- (6) 認定 OWS 大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰

4. 日本泳法保存事業

四方を海に囲まれ川や湖も多いわが国では、古くから水と生き、一方で水の脅威にもさらされてきた。そのような環境が日本独自の泳法を生み出し、それらは游泳術、水術などと呼ばれ、命を守る実用の泳ぎ「日本泳法」として今日でも全国各地で継承されている。現存する13流派の游泳術や水術の保存と普及を図るため、日本泳法大会ならびに日本泳法研究会を柱として下記の事業を実施する。

日本泳法大会では、主に泳法競技と資格審査を行う。流派を問わない公平・公正な演技評価が、選手のモチベーションアップと演技審査の質的向上につながることから、1回以上の審判研修会を実施する。

資格審査は、上位資格取得を目指し研鑽を継続することが、指導者層の育成と、自己研鑽として日本泳法継続を後押しすることからこれを推進する。入門者が最初に受ける游士資格審査は、8月の日本泳法大会以外に、関東、関西で各1回開催する。

有資格者の上位資格チャレンジを支援し、正しい泳法の保存を目的とする日本泳法研鑽会を継続実施する。

2022年度に制作した日本泳法プロモーションビデオを様々な機会に活用し、日本独自の水泳文化である日本泳法を広く発信すべく、広報活動を強化する。

国民皆泳の精神を受け継ぐ「水泳の日」事業には、各流派団体の協力を得て積極的に参加する。

- | | | |
|-----------------|----------|------------------------|
| (1) 游士資格審査会 | | |
| 関東 [千葉会場] | 5月14日 | 千葉県国際総合水泳場 (予定) |
| 関西 [和歌山会場] | 3月24日 | 秋葉山公園県民水泳場 |
| (2) 日本泳法研鑽会 | | |
| 第18回 [千葉会場] | 5月14日 | 千葉県国際総合水泳場 (予定) |
| 第19回 [和歌山会場] | 3月24日 | 秋葉山公園県民水泳場 |
| (3) 第68回日本泳法大会 | 8月19・20日 | 千葉県国際総合水泳場 |
| (4) 第71回日本泳法研究会 | | |
| 課題「岩倉流」 | 3月23・24日 | 秋葉山公園県民水泳場
・和歌山城ホール |
| (5) 審判研修会 (予定) | 3月24日 | 秋葉山公園県民水泳場 |

5. 機関誌発行事業

2022年度は、徐々に戻りつつある各競技の国内・国際大会のレポートを、機関誌「月刊水泳」にあますところなく掲載した。2023度も、各所で開催される国内・国際大会のレポートの充実、代表選手名簿のタイムリーな掲載、強化事業・普及事業のみならず、各種式典などを含めた本連盟の諸事業の情報発信をバランスよく行う。

6. 広報事業

- (1) 公式HP
- ① 各競技の最新情報や大会レポートをさらに見やすく、分かりやすく、迅速に掲載する。
 - ② フォロワー数も増え、ひとつのプラットフォームとして活用できる基盤を築きつつあるSNS (Facebook、Instagram、Twitter) での情報発信を継続し、広く本連盟の活動を広報する。
 - ③ 過去に発行した機関誌 (月刊水泳) のPDF版を順次公開する。
 - ④ 機関誌「月刊水泳」の発行後に掲載記事の抜粋を公式HPで公開し、「月刊水泳」を広く周知する。
- (2) 報道対応
- 各競技 (各専門委員会) に大会時における報道対応の人員確保を要請するとともに、報道対応マニュアルの作成を進める。

(3) アニュアルレポート作成

初発行となった2022年度版をブラッシュアップし、さらに見やすく、分かりやすく、本連盟の1年間の活動内容をまとめ、協賛社への報告などに利活用する。

(4) 記念誌発行事業

2024年の本連盟創立100周年に向けて、「創立100周年記念誌（本編）」、「創立100周年記念誌（10年史別冊）」、「創立100周年記念映像 DVD」の3部から成る記念誌のコンテンツの精査、制作、関係各署への寄稿依頼を進める。

7. アスリート委員会事業

(1) 現役アスリートの意見集約

① 本連盟への提案、提言

(2) 現役アスリートへのサポートの検討

- ① 女子選手の生理に関する啓発
- ② 必要に応じたサポートの調査

(3) ジュニアアスリートへの動機づけ

- ① ジュニアアスリートおよび保護者に向けた各種情報の発信および交流
- ② 各地のジュニア合宿、講演会などへのオリンピックの派遣

(4) 水泳の普及への貢献

- ① 水泳の日など、本連盟の普及事業への貢献
- ② 公式 SNS を活用した水泳普及に資する情報発信

(5) オリンピアン OBOG 会のネットワーク強化

- ① 本連盟事業への協力呼びかけ
- ② オリンピアン OBOG 総会・懇親会の開催

8. 国際貢献事業

(1) 要請に応じた水泳指導者の海外派遣制度の検討

(2) 指導力と語学力を兼備した水泳指導者の海外派遣制度の検討

VI 組織運営のための共通事業

先達が築いた水泳ニッポンの歴史・伝統・礎のもと、組織力の一層の強化を図り、競技団体としての価値向上に資する高潔・公正な組織運営を徹底する。

1. 総務関係事業

「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」に基づくコンプライアンス

施策を検討、実施する。本連盟各種会議および地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者・関係団体との情報共有および意思疎通を図り、円滑な業務を遂行する。

2. マーケティング事業

2024年パリオリンピックに向けて、オフィシャルスポンサー、パートナー、サプライヤーなどの各企業とのさらなる連携を図るとともに、新規協賛企業の獲得に努める。SDGsなど時代の流れに対応するとともに、各種施策を講じて水泳ファン・水泳愛好者へのリーチを図り、水泳ファミリーを拡大して、スケールメリットを生かしたマーケティング戦略を構築する。

3. 特別委員会事業

- | | | |
|--|--------------|--------|
| (1) 財務委員会
免税募金事業の推進 | 財務委員長 | 堀 正美 |
| (2) 競技者資格審査委員会
競技者資格の審査 | 競技者資格審査委員長 | 坂元 要 |
| (3) 選手選考委員会
国際競技会派遣日本代表選手団の選考 | 選手選考委員長 | 鈴木 大地 |
| (4) 指導者養成委員会
指導者養成制度の推進と資格認定審査 | 指導者養成委員長 | 金子 日出澄 |
| (5) 国際委員会
国際関係の情報収集および共有、国際競技会の招致検討 | 国際委員長 | 緒方 茂生 |
| (6) アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピング活動の計画と推進 | アンチ・ドーピング委員長 | 鈴木 陽二 |
| (7) スポーツ環境委員会
スポーツ環境保全活動の啓発、推進、情報発信 | スポーツ環境委員長 | 岩崎 恭子 |
| (8) 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導 | 倫理委員長 | 坂元 要 |
| (9) 危機管理委員会
緊急時対応および危機管理意識の啓発と指導 | 危機管理委員長 | 鈴木 大地 |

Ⅶ 組織運営および財政基盤の確立

「水泳ニッポン・中期計画2017－2024」に基づいて、事業内容の精査・充実を推進する。各事業の遂行は、各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、スポーツ庁、JSPO、JOCなどの関連団体とも連携を図り実施する。組織運営に際しては、ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底により、組織力の強化を図る。財政面においては、全体の収支バランスを考慮し、有効適切な事業の執行、予算管理の徹底を図る。